

第6回 島田市旧市内小中一貫教育推進検討委員会 概要

学校教育課

日時：令和6年11月25日（月）午前9時～午後3時30分

視察：島田第一小学校、島田第二小学校、島田第四小学校、島田第二中学校

出席：委員12人（有識者1人、地域住民代表4人、保護者代表4人、学校長3人）
事務局

（学校教育課長、主席指導主事、学校教育課長補佐、学校教育係長）
オブザーバー（教育長）

欠席：地域住民代表1人、保護者代表1人、学校長1人

1 学校施設見学

午前9時～ 島田第一小学校 → 島田第二小学校

午後1時～ 島田第四小学校 → 島田第二中学校

2 意見交換、協議

旧市内にある小中学校で建築年数が異なる学校施設を見学し、意見交換を行った。
以下主な意見。

(1) 教育環境について

- ・施設の経過年数に関係なくどの学校もICTを活用した授業が行われていた。
- ・タブレットの授業は有効であると思うが心を育てるために画面に長時間向き合うことの影響が心配。
- ・施設の新しい古いは必ずある。ハードの格差ではなくソフト面で補っていくことが必要。
- ・小学校の授業を見て児童本位と痛感した。小中一貫教育の観点からどのようなつながっていくのかと思った。

(2) 施設について

- ・見比べることで老朽化の現状を知る機会となった。
- ・新しい学校は環境的に広く、過ごしやすかった。
- ・修繕が必要なところは、生活しやすい環境に整えていくべき。
- ・古い校舎ほど水回りが劣化している。
- ・新しい校舎は、光の取入れ方や木の使い方をとてもよく考えてあり、ぬくもりを感じた。
- ・新しい学校はシンプルで余分な物がないという印象を受けた。
- ・トイレの洋式化は生活様式の変化で必要なものなので改善をしていただきたい。
- ・男女の区別がないトイレはどこの学校にあってもよいと思った。
- ・雨漏りや床の修繕はあるが、授業ができない、生活ができない訳ではなく、与えられた環境で学びができるよう取り組んでいる。

(3) その他

- ・新しい学校とそうでない学校を比べると格差を感じてしまう。
- ・新旧あるが学校に通えばそこが自分の学校であり母校になる、それぞれに頑張っている。
- ・静岡から転入してきて心配だったがすぐ馴染んだため分離進学もあまり心配ないと思う。
- ・通学の時間について今後の問題になると感じた。
- ・校舎に余裕があるならば、順番に学区編制をしていけばよいと思う。

3 委員長まとめ

- ・学校の設計段階でその時代を反映し、使う人の思いや地域の思いが入っていると感じている。
- ・新しい学校は多様性への配慮がされている等時代の変化にどう対応していくのかが重要である。
- ・小中一貫教育推進検討委員会として、距離の問題や教育環境の違いをどのように捉えていくか、論点を整理しながらまとめていきたい。